



小鳥のさえずりが聞こえる河畔林づくり

助成区分 植栽 環境保全 調査・研究 教育・啓蒙

実施状況 参加人数 **40人** 参加者満足度 **100%** 活動の全体目標に対する達成度 **90%**

課題

平成23年度からの現在の植樹地は葎など雑草の繁殖力が強く、苗木が埋もれて育ちにくく、草刈りも木の場所がわかりにくくて大変苦勞をしています。

活動内容

木の種採り・播種 地元の山などから在来種の木の種を採取後、当会の苗場にて発泡スチロールの箱やポットに種を播きます。
 育苗作業 4月～11月にかけて毎日「水やり」管理します。
 苗木の床替え作業 2～3年経過し、数センチメートルに成長した苗木をポットに3～5本ずつ植え替えます。
 植樹地経過観察 過去に植樹した現地の観察と前年・前々年植えた木の周りの雑草を取り除きます。
 植樹地草刈・造成 植樹地の下草刈り、植樹用ユニット(直径3mの円形)の造成。
 植樹会実施 植樹用の各ユニット(15ユニット)に10種類の苗木(1ユニット合計150～250本)を植樹します。

成果

- ・植樹地を前年からシートで覆い、雑草が生えるのを防ぎました。
- ・老若男女問わず世代を越えて協力して活動ができました。
 子供達にとっては異年齢交流の場であり、大きい子供が小さい子供の面倒をみるなどの意識が芽生えています。
- ・種採りから始め、やがて森林になる過程を学び、木とふれあうことで良好な体験型環境学習ができました。
 毎年植樹した木々が大きく育っている様子を観察し、自然林の重要性を認識し、自然の森と同じように森が作られていく過程を身をもって体験しています。(平成14年から15000本以上の苗木を植えています。)
- ・自然林再生、水辺環境の改善が多少なりとも進めることができました。
 生態学的混播混植法による植樹は、自然の森の成り立ちを見習った緑化で、自然林とそこに棲む動植物による自然の生態系の再生を目指したものです。樹木は土の保水効果が高まり、水害を減らす役割があるとともに、二酸化炭素を削減し地球温暖化の防止につながります。

工夫した点

- ・植樹地の雑草対策として今回初めての試みで植樹地を去年の11月からシートで覆い、雑草が生えるのを抑えました。

今後の課題

- ・今回植えた植樹地の雑草を今後生え難くする工夫・方法を考える。
- ・年間活動事業が多く、育てること、植えることに一生懸命なので、もっと森の観察会や勉強会を行いたい。